THE DAILY NNA
www.nna.jp
ベトナム版

NNA JAPAN CO., LTD.
〒105-7209　東京都港区東新橋1丁目7番1号　汐留メディアタワー9階
Tel：81-3-6218-4330　Fax：81-3-6218-4337　E-mail：sales_vn@nna.asia

KDN PP 11802/03/2012(029010)　MDDI (P) 070/03/2026

リズム、越2社合併で営業力強化
EPEと非EPE、両形態を維持

精密部品や接続端子、時計などの製造・販売を手がけるリズムは、ベトナムで傘下の輸出加工企業（EPE）と非輸出加工企業（NON－EPE）を吸収合併により統合した。合併後も両形態を維持しながら、金属プレス加工と樹脂成形などの事業を一体化し、営業力を強化した。現地法人のリズムベトナム（ハノイ）では新規顧客の開拓が進み、2025年度は過去最高益を記録した。実現までに2年以上を要したものの、既存拠点の再編が事業拡大を後押しした。【中野香菜子】



合併による営業面での相乗効果について語るリズムベトナム（ハノイ）の松村社長＝10月8日、ハノイ

EPEは輸出向けの製造を手がけ、海外から輸入した原材料や機械設備などについて、一定の条件下で関税や付加価値税（VAT）の免除などの優遇措置を受けられる。一方、NON－EPEは国内向けの販売に際してEPE特有の通関手続きなどの制約を受けず、内需が拡大するベトナムで販路を拡大しやすい利点がある。

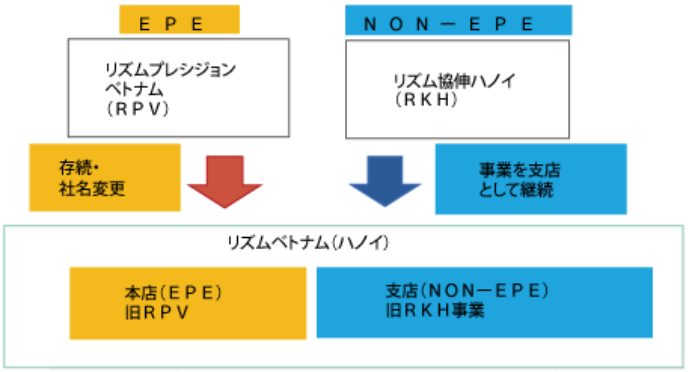
リズムは、ベトナム子会社でEPE形態のリズム・プレシジョン・ベトナム（RPV）を存続会社として、孫会社でNON－EPE形態のリズム協伸ハノイ（RKH）を吸収合併した。RPVはリズムベトナム（ハノイ）に社名を変更して本店とし、旧RKHの事業はNON－EPE形態の支店として継続している。

RPVは事務機器やカメラなどの民生品向けの樹脂成形や組み立て、RKHは自動車部品向けの金属プレス

Copyright(C) NNA All rights reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます

加工を主力とする。両社の生産拠点は近接しているものの、別法人のため営業活動や経営管理が分かれていた。合併後は経営陣や管理体制を統合し、双方の製造技術や顧客基盤を一体的に活用できる体制とした。

合併の全体像



インタビュー内容を基にＮＮＡ作成

ＥＰＥとＮＯＮ－ＥＰＥでは税制上の取り扱いや取引手続きが異なり、取引先によって希望する企業形態も異なる。いずれか一方に統合すると、既存の商流や取引に影響が生じる恐れがあった。リズムの相澤竜也常務は、既存顧客への影響を最小限に抑えるため、両方の形態を残す方式を選択したと説明した。

前例ない合併、実現に２年超

今回の合併手続きは、ベトナムで主に日系企業を対象に会計・進出コンサルティングなどを手がけるＩ－ＧＬＯＣＡＬ（アイ・グローカル）が支援した。同社が当局に確認したところ、ＥＰＥがＮＯＮ－ＥＰＥを直接吸収合併する方式は、ベトナムに進出する海外直接投資（ＦＤＩ）企業として初の事例とみられる。

アイ・グローカルによると、ベトナムでは日系企業の新規進出が引き続きみられる一方、既存拠点の効率化や事業拡大を目的としたグループ再編の動きも活発化しており、関連する相談が増加している。ただ、企業形態の異なる法人の合併では、法制度上の取り扱いや行政手続きに不明確な点があり、実務上の対応を都度確認しながら進める必要がある。そのため、手続きの確実性を重視する企業にとってはハードルが高く、実行に踏み切れないケースも多いという。

リズムは22年６月に合併の検討を開始した。その後、アイ・グローカルと共に手続きの概要を調査・協議し、24年３月ごろに吸収合併に向けた手続きを始めた。前例のない手続きについては当局との調整を重ね、同年10月に登記上の合併を実現した。アイ・グローカルによると、その後も旧ＲＫＨが既に納付したＶＡＴの還付手続きや税務調査、在庫・資産の移管に伴う税関調査などに対応し、26年７月にすべての手続きが完了した。

合併に向けては、旧ＲＫＨ側の工場で約１カ月間、生産を停止する必要があった。事前に約半年かけて製品在庫を積み増したことで、既存顧客への納品に支障を来すことなく合併を完了したという。

25年最高益、30年に３倍も視野

リズムベトナム（ハノイ）の松村和幸社長は、ベトナムで日系メーカーが台湾や中国のメーカーとの競争に苦戦する中、合併により顧客の裾野が広がったと語った。

特に、旧ＲＫＨの取引先である自動車関連企業に樹脂成形部品を提案するなど、従来は難しかった顧客開拓が進んでいる。顧客側も別々に発注していた製品を１社にまとめて依頼できるようになり、調達の利便性が高まっている。松村氏は合併後、旧２社で相互の顧客紹介や共同営業が進んだと説明。引き合い件数は倍増したといい、「営業面での相乗効果は期待以上」と手応えを示した。

製造面でも相乗効果が表れている。自動車関連の厳しい品質要求に対応してきた旧ＲＫＨのノウハウを旧ＲＰＶ側の品質管理体制の強化に生かし、自動車関連企業からの受注拡大につなげている。一方、旧ＲＰＶが強みとする樹脂成形品と旧ＲＫＨが手がけてきた金属部品を一体化する「インサート成形」加工技術など、双方の強みを活用し、付加価値を高める取り組みを進めている。

リズムベトナム（ハノイ）は25年度に過去最高の営業利益を記録した。同社の売上高は26年３月期に70億円超となり、リズムグループの連結売上高に占める割合は10%を超える。松村氏は、現在の引き合いが受注につながれば、30年には現在の２倍の売上高、３倍の営業利益も視野に入ると期待をにじませた。

日本と肩を並べる拠点へ、複合品強化

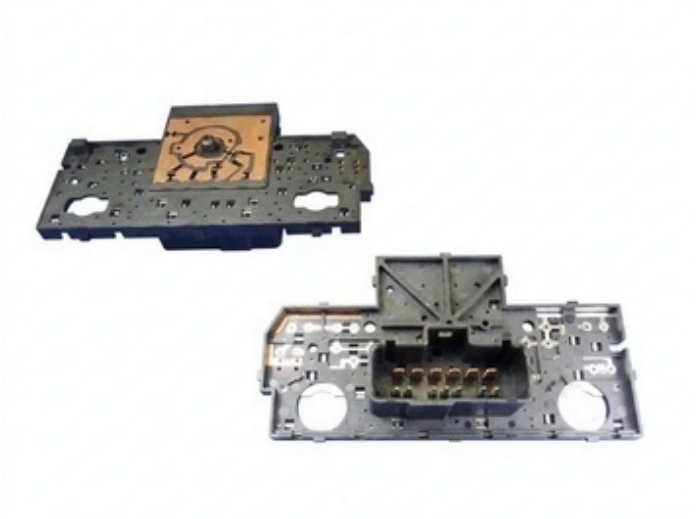
相澤氏は、ベトナムを海外事業の最重要拠点と位置付け、さらなる事業拡大を目指す考えを示した。同国には1990年代に進出して生産基盤を整えており、現在の売り上げ規模はグループ内で日本に次ぐ２番目。相澤氏は「ベトナムは日本国内に匹敵する規模に伸びる余地がある。日本と同じくらいの背丈にしていきたい」と語った。

今後の成長の柱とするのが、金属プレス加工と樹脂成形など複数の技術を組み合わせた「複合品」だ。金属部品や樹脂部品の単独製造に比べ、両方の技術を高い水準で持つ企業は少なく、競争力を発揮できるとみている。

リズムは東南アジアではインドネシアにも拠点を持つが、同国では買収した地場企業を通じて金属プレス加

Copyright(C) NNA All rights reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます

工を中心に展開している。グループ内で両技術を組み合わせて複合品を製造するのは日本とベトナムが中心となる。今回の合併によって両技術を一体化した強みを生かし、ベトナムで高付加価値の複合品事業を拡大することで、グループ全体の成長につなげる考えだ。



金属プレス加工と樹脂成形などの技術を組み合わせた複合品（リズム提供）

＜メモ＞
リズムのベトナム事業
1995年に協伸工業が現在のリズムベトナム（サイゴン）となる協伸ベトナムを設立し、ベトナムに進出した。2005年にリズム・プレシジョン・ベトナム（ＲＰＶ）を設立。11年に協伸工業の株式を取得し、協伸ベトナムを子会社化した。現在はリズムベトナム（ハノイ）とリズムベトナム（サイゴン）の２法人でベトナム事業を展開している。自動車や二輪車のほか、事務機器や防災機器、太陽光発電システム、カメラなどの民生品などに使われる精密部品を製造している。

Copyright(C) NNA All rights reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます